

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 6 月 26 日現在

機関番号：14601

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2013～2016

課題番号：25370215

研究課題名（和文）全国書房ネットワークの総合的研究 戦時下～占領期における文学と出版メディア

研究課題名（英文）An Integrative Study of the Zenkoku Shobo Network: Literature and Print Media in Wartime and Occupation Japan

研究代表者

日高 佳紀 (Hidaka, Yoshiki)

奈良教育大学・教育学部・教授

研究者番号：00335465

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,600,000円

研究成果の概要（和文）：1940年代に大阪で創業し、戦後の占領期にメジャー出版社に比肩する業務を担った出版社「全国書房」の出版事業における作家と編集者、出版人を中心としたネットワークの全容を解明することを目指し、創業から1970年前後に至るまでの出版書籍の調査、1944～1949年に刊行された文芸雑誌『新文学』の分析、および、創業者である田中秀吉（故人）宅の所蔵資料調査などを行い、終戦前後の過渡的な時代における文学と出版メディアの関係について検討、研究期間終了後に取り組み成果出版のための基礎を構築した。

研究成果の概要（英文）：This project aimed at grasping the full picture of the activities undertaken by the network of publishers, editors, and writers involved with the Zenkoku Shobo, a publishing house founded in Osaka in the 1940s, which came to play a very important role during and after the Occupation, comparable to the role played by much bigger publishing houses. As part of this project, we carried out a survey of all of Zenkoku Shobo's publications, from its founding and until around the year 1970; we analysed in detail the literary magazine "Shin-bungaku", published between 1944-1949; and we examined the documents found in the archives of the late Tanaka Hidekichi, the founder of the above-mentioned publishing house. This investigation has been instrumental in shedding light on the relationship between literature and print media during the post-war period of transition, as well as laid the foundation for publishing the results of this study in the near future.

研究分野：日本文学

キーワード：日本文学 近現代文学 出版メディア 関西文壇 出版人

1. 研究開始当初の背景

(1) 文学と出版メディアの関わりについては、前田愛『近代読者の成立』(有精堂出版、1973)が、近代における読者の質的な転換とその際のメディアの果たした機能を解明して以来、多くの研究が重ねられてきた。比較的最近の成果としても、たとえば出版メディア研究の領域での永嶺重敏『雑誌と読者の近代』(日本エディタースクール出版部、1997)や、近代文学領域での、山本芳明『文学者はつくられる』(ひつじ書房、2000)、紅野謙介『投機としての文学 活字・懸賞・メディア』(新曜社、2003)といった著作が刊行されるなど、注目すべき分野であり続けていることはあらためて述べるまでもないであろう。

とくに山本・紅野両氏の研究に見られるように、言説分析を中心とした文学領域からのアプローチは、単なる一方向的なメディアと文学作品・創作に及ぼす影響のみを見ていくのではなく、時として文学自体がメディアから受ける影響を逆手にとって時代や状況に対する批評性を堅持していたことが明らかにされている。

出版メディアと文学作品の関わりは、単なる発表媒体と作品、という枠を超えて、時には相補的な関係を構築する場となることもあり、あるいは、内側に矛盾を抱えつつ批評行為のエネルギーを生み出す場として見出すことが可能なものなのである。

(2) 研究代表者にとっても、谷崎潤一郎を専門的に研究するなかで、新聞、雑誌、出版社等との関連から作品の価値や批評性を論じてきたように、出版メディアと文学との関係を考えることは、主要な研究テーマの一つである。また、例えば、文学研究の方法を援用しながら戦前期の日系カナダ移民コミュニティを彼らの新聞メディアから論じた一連の研究や、共編著『スポーツする文学 1920-30年代の文化詩学』(青弓社、2009)において、スポーツ誌に掲載された文学作品の分析からスポーツ文化の近代的側面の解明に取り組むなど、こうした研究の持つ有効性と可能性について、いくつかの学際的な研究を実践し成果を出すことで示してきた。

(3) 以上を念頭に置きながら、戦時下～占領期という過渡期において旺盛な出版活動をおこなった文芸出版社である「全国書房」を対象に据え、そこで行われたことの内実を、基幹雑誌であった『新文学』や、その他の出版物、および、同社に関わった作家や出版人、言論人、学者などのネットワークを実証的な調査をふまえて明らかにしたうえで、その内容や批評性、社会的な影響を分析し論じようとするものである。

これまでにおこなわれた全国書房の研究のなかでまとまったものとしては、本研究の分担者である増田周子の『『新文学』(全国書房)の大阪出版時代研究 大阪作家と編輯者

との交流を通して』(『日本近代文学』2005.10)がある。増田はこの論考において、『新文学』を中核に据えながら、その大阪時代に限定して作家と編集者との関わりを精密に実証研究しており、今回の研究の先駆となる重要な論考である。この増田論を手がかりにしながら、本研究は、大阪時代の『新文学』以外の出版物を扱いつつ、全国書房メジャー化のきっかけと考えられる本社の京都移転(1946年)前後のこと、さらに、それ以後のことを中心に調査、研究していくことになる。

また、初期の全国書房において出版顧問として重要な役割を果たした、女性作家・池田小菊については、同じく分担者の吉川仁子による一連の実証研究がある。志賀直哉の弟子でもあり、全国書房が地方ローカルの出版社に留まらない活動をしていく上での牽引役でもあった小菊の研究は、全国書房の重要な側面を捉える上で、外すことのできない要素とよい。

(4) 以上、増田、吉川に加えて、坂口安吾の専門家として1940年代を研究のターゲットとし、『文学的記憶・一九四〇年前後 昭和期文学と戦争の記憶』(翰林書房、2006)を著したほか、近年同時期の地方文芸誌の調査研究を進める大原祐治、占領期GHQ/SCAPによる検閲と文学の状況について多くの論考があり、『占領期雑誌資料大系 文学編』(岩波書店、2009-2010)の執筆者として解説や解題を手がけている天野知幸、幸田露伴や泉鏡花の作品分析を他領域の文化状況と接続しながら明治期から大正期まで幅広く研究している西川貴子、そして、詩歌・韻文の専門家として、中原中也を中心に、詩と言論、現代小説まで幅広く研究し、『接続する中也』(笠間書院、2007)の著書もある疋田雅昭。以上6名が研究分担者となって、共同研究グループを組織した。

2. 研究の目的

(1) 全国書房の出版活動の全容を明らかにする。

現在、国立国会図書館所蔵の全国書房刊行書籍は約280冊である。しかし、それは一部分にすぎない。他の図書館や資料館などを網羅的に調査・集計し「全国書房出版目録」といったデータベースの構築を目指す。

(2) 全国書房を中心とした、作家・出版関係者・言論人・学者等のネットワークを明らかにする。

とくに東京在住の作家・評論家との関わりや、関西出身・在住の書き手たちとの関係を捉える。

(3) 基幹雑誌『新文学』の内容の詳細と出版流通状況について明らかにする。

全39冊刊行された『新文学』を、刻々と変

化する時代状況に引きつけながら精密に分析し、併せて出版部数や流通経路等についての調査を進める。

(4) 全国書房ネットワークにおける作家・作品を戦時下～占領期という時代における作家たちの創作行為に対して、出版メディアがおよぼした影響関係について明らかにする。

3. 研究の方法

(1) 研究代表者の勤務する奈良教育大学を研究運営の中心とし、研究計画遂行のための会議の企画、連絡事務、研究分担者その他に対する基礎資料の提供、といった作業等を行った。また、研究関連資料を豊富に所蔵する奈良女子大学および関西大学と緊密に連携し、資料の提供を受けるだけでなく、必要に応じて研究会議やワークショップの会場提供も受けた。

(2) 年4回の研究会議を開催し、後述する全国書房出版書籍の調査報告や、『新文学』の輪読、各自が設定したテーマの中間報告と討議、研究協力者の講演などを行った。

(3) 全国書房から出版された書籍のデータベースを構築するため、全国の公共・大学図書館の所蔵書を網羅的に調査した。

(4) 『新文学』の全ページをスキャンしてデータ化し、目次と執筆者の整理、内容の精読を行った。

(5) 全国書房創業者である田中秀吉元社長(故人)の自宅土蔵内を調査し、所蔵資料の収集と内容分析を行った。

(6) 全国書房と関わりの深い関連施設の訪問と聞き取り調査、資料調査を行った。

4. 研究成果

(1) 全国書房の出版した書籍を網羅したデータベースの構築のために、研究メンバーで分担して全国の公共図書館、大学図書館の所蔵図書の調査を行い、主要都市圏の図書館調査を通して、全国書房の出版状況の全体像が把握できた。

(2) 1年目に浅岡邦雄氏(中京大学教授・近代出版史)による講演「戦前期の出版検閲と法制度」(2013年6月9日、同志社大学)、浦西和彦氏(関西大学名誉教授・関西出版界と文学)による講演「関西出版界の事情について」(2014年3月8日、奈良教育大学)といった研究協力者の講演を開催、浅岡氏からは、出版史上における本研究プロジェクトの意義および研究方法についての助言を、浦西氏からは、関西出版界における全国書房の位置に関わる助言を、

それぞれ受けた。

(3) 研究会議を開催し、上述の講演のほか、調査報告、『新文学』の輪読、各自が設定したテーマの研究発表と討議を行った。以下に研究会議の開催日(会場)と主な内容を記す。

2013年度

6月9日(同志社大学): 浅岡氏の講演、全国図書館調査の分担および調査方法の確認など。

11月10日(奈良女子大学): 吉川仁子による研究発表「池田小菊 全国書房の草創期にかかわった女性作家」および池田小菊関連の奈良女子大学所蔵資料の閲覧。

1月26日(同志社大学): 図書館調査の中間報告、各自の研究テーマの絞り込みなど。
3月8-9日(奈良教育大学): 浦西氏の講演、図書館調査の報告とデータベース化、各自の研究テーマに関する中間報告。

2014年度

7月13日(京都教育大学): データベース構築の確認作業、作家情報からの全国書房調査のための分担。

9月18-19日(キャンパスプラザ京都): 全国書房出版書籍データベースの構築と確認、作家情報に関する調査報告。

12月7日(キャンパスプラザ京都): ニッシャ(旧日本写真印刷)訪問(10月27日)の際の資料調査の報告。

3月1-2日(長野県短期大学): 各研究テーマの報告。

3月26-27日(キャンパスプラザ京都): 各研究テーマの報告。

2015年度

7月19日(奈良女子大学): 田中家所蔵資料調査(6月7日)の報告と収集資料閲覧、分析など。

8月31-9月1日(奈良女子大学): 各研究テーマの報告。

10月4日(奈良教育大学): 田中家所蔵資料調査(10月3日)の報告、各研究テーマの報告。

12月23日(同志社大学): 各研究テーマの報告。

2月22-23日(東京学芸大学): 成果出版に向けた打ち合わせ、出版社の編集者との面談、『新文学』精読作業に向けた分担。

2016年度

5月21日(キャンパスプラザ京都): 『新文学』輪読、関連調査報告(西川、日高、吉川)

12月9日(京都教育大学): 『新文学』輪読、関連調査報告(疋田、大原)

2月23日(京都教育大学): 『新文学』輪読、関連調査報告(増田、吉川)

3月22日(京都教育大学): 『新文学』輪読、関連調査報告(天野、西川)

(4) 関連施設の訪問調査として、2014年10月27日にニッシャ(旧日本写真印刷)を訪

問、関係資料の閲覧と聞き取り調査を行った。

(5)2015年6月7日および10月3日の2度、全国書房創業者・故田中秀吉宅を訪問、自宅土蔵内の蔵書等関連資料を調査収集した。これにより、田中秀吉の履歴の不明部分が明らかになり、また、全国書房の経営状態、多角経営の方向性をもっていたことなど、さまざまなことが明らかとなった。

(6)研究期間終了後も、『新文学』輪読を中心とした研究会を1年半程度継続し、成果論文集を作成する予定である。研究期間内の研究成果により、その基礎の構築が達成された。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計19件)

吉川仁子・弦巻克二、池田小菊未発表原稿「朝顔」(翻刻・解説)、りずむ、査読無、6、2017、pp.52-80

大原祐治、方法論としての「文学のふるさと」 坂口安吾における「芥川龍之介」、近代文学合同研究会論集、査読無、13、2017、pp.2-16

増田周子、火野葦平の新中国視察記 広東から、漢口へ、関西大学東西学術研究所紀要、査読有、49、2016、pp.39-60

増田周子、火野葦平「恋と牡丹」論 『聊齋志異』「葛巾」の改変から見る主題、関西大学文学論集、査読有、66-3、2016、pp.1-24

正田雅昭、クラインは自ら壺を割るか 吉本隆明『転位のための十篇を読む』、昭和文学研究、査読有、73、2016、pp.79-92

天野知幸、占領期におけるジェンダー・メタファー 三島由紀夫「聖女」を題材として、京都教育大学国文学会誌、査読無、44、2016、pp.1-16

吉川仁子、夏目漱石『こゝろ』論 書き残すことの意味について、序説、査読有、43、2016、pp.1-20

大原祐治、太宰治「走れメロス」における「村」と「市」、日本文学と故郷／郷土(人文社会科学研究所研究プロジェクト報告書)、査読有、297、2016、pp.1-9

大原祐治、動物・ことば・時間 動物と人間の文学誌 のための覚え書き、千葉大学人文社会科学研究所、査読有、32、2016、pp.1-12

吉川仁子・弦巻克二、池田小菊未発表原

稿 彼女の犯罪、りずむ、査読無、5、2016、pp.52-80

西川貴子、新聞小説「更生記」の世界 絵と文の協奏、同志社国文学、査読有、84、2016、pp.158-169

西川貴子、言をめぐる物語 幸田露伴「平将門」論、藝文研究、査読有、109、2015、pp.148-164

吉川仁子・弦巻克二、池田小菊未発表原稿「淋しき存在」(翻刻・解説)、りずむ、査読無、4、2015、pp.74-113

日高佳紀、狂気への回路 谷崎潤一郎「黒白」の読者と挿絵、奈良教育大学国文学研究と教育、査読無、38、2015、pp.15-43

大原祐治、地図と痕跡 大岡昇平『武蔵野夫人』論、人文研究、査読無、44、2015、pp.143-168

増田周子、『辻馬車』からの藤澤桓夫 同人雑誌の時代に、大阪春秋、査読有、42-2、2014、pp.26-29

増田周子、織田作之助「六白金星」の執筆に関する考察 『文藝』版草稿断簡の検討を中心として、関西大学東西学術研究所紀要、47、2014、pp.33-53

増田周子、火野葦平「手」と水木しげる「河童の手」、文学論集、査読無、4、2014、pp.26-29

西川貴子、佐藤春夫「更生記」論 「狂気」をめぐる語り、同志社国文学、査読有、81、2014、pp.266-277

[学会発表](計10件)

大原祐治、所有と欲望をめぐって 「桜の森の満開の下」考、坂口安吾研究会第30回研究集会、2017年3月19日、花園大学

増田周子、火野葦平と朝鮮、国際シンポジウム「方法としての越境と混血 詩人黄瀛生誕110年を記念して」、2016年10月23日、四川外国語大学

増田周子、A comparative study on Ashihei Hino "stone and nail" and Shigeru Mizuki "urine", International conference, JAPAN - PREMODERN, MODERN AND CONTEMPORARY、2016年9月1日、Dimitrie Cantemir Christian University

日高佳紀、谷崎潤一郎『文章読本』の可能性、国際シンポジウム「人文学の危機」と文学研究 いま文学理論に何が出来るか、2016年7月31日、京都大学

天野知幸、GHQ 占領下の引揚雑誌における越境の記録と記憶 雑誌『みなと』を中心に、国際日本文化研究センター共同研究「戦後日本文化再考」2016年度第1回研究会、2016年4月17日、国際日本文化研究センター

大原祐治、「芥川龍之介」の使い方 方法論としての「文学のふるさと」、近代文学合同研究会第15回シンポジウム、2015年12月12日、慶應義塾大学

日高佳紀、「嘆きの門」から「痴人の愛」へ 谷崎潤一郎・1920年前後の都市表象の変容、谷崎潤一郎没後50年上海シンポジウム「物語の力」、2015年11月20-22日、同濟大学

大原祐治、占領期におけるローカル・メディアのかたち 雑誌「月刊にひがた」の場合、国際日本文化研究センター共同研究「戦後日本文化再考」2015年度第3回研究会、2015年9月20日、国際日本文化研究センター

西川貴子、'Law' and 'Ghosts' in Koda Rohan's Detective Story 'Ayashiyana', International conference, JAPAN - PREMODERN, MODERN AND CONTEMPORARY, 2015年9月9-11日、"Dimitrie Cantemir" Christian University

西川貴子・日高佳紀、モダン文化と小説の視覚化表象 挿絵と物語言説の検討から、タイ国日本研究交際シンポジウム2014、2014年8月26日、チュラーロンコーン大学

〔図書〕(計5件)

増田周子 他、なにわ・大阪研究センター、近代大阪の多角的研究 文学・言語・映画・国際事情、2017、80

日高佳紀 他、翰林書房、谷崎潤一郎読本、2016、356

大原祐治、三人社、『月刊にひがた』復刻版 別冊 解題・総目次・執筆者索引、2016、72

日高佳紀、双文社出版、谷崎潤一郎のディスカール 近代読者への接近、2015、305

大原祐治、防空と空襲(コレクション・モダン都市文化 第100巻)、2014、800

6. 研究組織

(1) 研究代表者

日高 佳紀 (HIDAKA, Yoshiki)
奈良教育大学・教育学部・教授
研究者番号：00335465

(2) 研究分担者

天野知幸 (AMANO, Chisa)
京都教育大学・教育学部・准教授
研究者番号：40552998

大原祐治 (OHARA, Yuji)
千葉大学・文学部・教授
研究者番号：40554184

西川 貴子 (NISHIKAWA, Atsuko)
同志社大学・文学部・教授
研究者番号：20388036

疋田雅昭 (HIKITA, Masaaki)
東京学芸大学・教育学部・准教授
研究者番号：70469477

増田 周子 (MASUDA, Chikako)
関西大学・文学部・教授
研究者番号：30294664

吉川仁子 (YOSHIKAWA, Hitoko)
奈良女子大学・人文科学系・准教授
研究者番号：90243352

(3) 連携研究者

なし

(4) 研究協力者

浦西和彦 (URANISHI, Kazuhiko)

浅岡邦雄 (ASAOKA, Kunio)